大きなギャップがあるのは当たり前のことだという見方もある。子どもは成長していく存在であり、それに従い行動も日々変化する。子育てでは親たちは予測できない事態に常に遭遇し、対処しなければならない。ところが、現代日本では予測できないことをできるだけ避けたい、という傾向が強くある。そして、何についてもマニュアルを作成し、誰もが共通の答えを持とうとしている。１つの確かな答えが必ずあるはずだ、という前提で仕事をしている。現代日本の社会風潮は、マニュアル依存である。何か事故が起これば、マニュアルはあったのか、マニュアルどおりにしていたのか、が問われる。

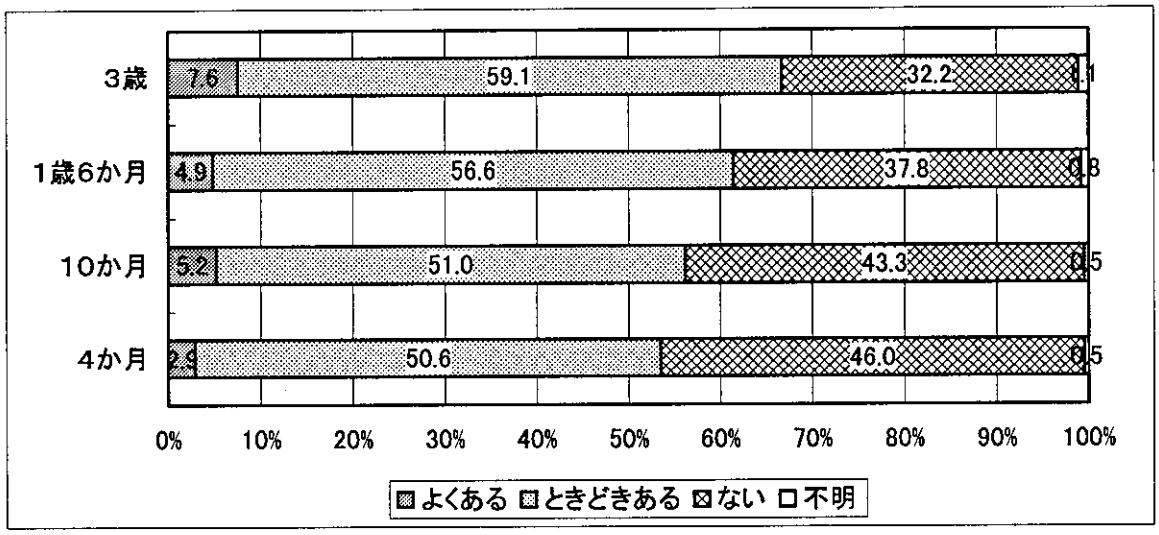
しかし、子育てでは、誰にでも当てはまる答えはあり得ない。自分の子どもとぴったりあうことを書いていないことに悩んだ母親がよく「育児書は嘘ばっかりだ」と訴えるのを聞く。そして、なぜ赤ちゃんに取り扱いマニュアルが付いていないのか、と真剣に不満を訴える母親も登場している。しかし、「特定の子どもにぴったり合う育児書は書けない」のであり、そのような育児書を要求すること自体、無理な要求である。マークシート方式のテストに慣れた今の子育て真っ最中の親の場合、「答えを考えるのは私の仕事ではない」と意識的、あるいは無意識的に考えているようである。答えを考えるのは、出題者の役割であり、「私のするのは、与えられた選択肢から正しい答えを選ぶことだ」という志向が強い。しかし、子育てでは、ひとつのはっきりとした答えはない。もし、はっきりした答えを与えられても、現実にはうまくいかない。「ＮＰＯ法人　こころの子育てインターねっと関西」の事務局には、「電話相談をする度に落ち込む」という訴えがよくある。電話相談をして、「正しい子育て」を教えられ、そのときはなんとなく納得するのであるが、現実にはそのとおりにはいかず、「私が悪いのか」と育児に自信がなくなり、落ち込む、という。親たちは「正しい育児」については、知っている場合も多い。しかし、その「正しい育児」ができなくて悩んでいるのである。

本章第Ｃ－３節で述べたように、「自分の子どもをもつ前にイメージしていた育児と実際の育児とでは違いがありましたか」に「おおいにあった」と答える母親は、精神的ストレスが高いことが判明している。育児においては、日々予測できない事態が起こっており、母親たちは子育てにイライラや不安を募らせている。世の中全体が予測可能性を追求している現代日本に育った親たちにとって、育児という予測できない事業に取り組むことは、想像以上に不安やイライラが募る体験なのである。

### Ｃ－９－３　自信がもてないことが、ストレスの大きな原因

図 C-9-1 に「育児に自信がもてない、と感じることがありますか」という質問結果を示している。児の月齢とともに増加し、３歳児健診時点では、「よくある」７．６％、「ときどきある」５９．１％、「ない」３２．２％である。この質問は、「大阪レポート」にはない。そのため、自信がない親が増えているのか、どうかについては、一概に評価をくだすことはできない。「育児に自信がもてない母親がこんなにも多いのか」という見方もできるし、子育てのことだから「自信がもてない」と感じることは誰にでもあるだろう、という見方もできる。

図 C-9-1　育児に自信がもてない、と感じることがありますか




一方、「育児に自信がもてない、と感じることがありますか」という質問結果と、母親の精神的安定度がきわめて強い相関関係があることが「兵庫レポート」では判明している。すなわち、育児に自信がもてない親は育児での不安感（図 C-5-6）や「イライラ感」（図 C-6-2）が強く、体罰も多用していることが判明している。「育児に自信が持てない」ということが、母親の精神的ストレスの大きな原因になっているのである。そのため、図 C-9-1 に示した「育児に自信がもてない」という母親たちの訴えは、そのようなことはあって当たり前だ、と軽く受け流さないで対応すべきであることを示している。

## Ｃ－９－４　自信がないにもかかわらず、避けられない育児

現代の母親たちの世代は、自信がないままに何かをする、ということに慣れていない世代である。自信がなければ、それはしないで避けてきた母親たちにとって、育児は自信がなくても避けて通れない初めての体験である。そのため、一般の想像を超えて、自信がもてないことが大きな精神的ストレスの原因になっているのである。

このことから言えることは、子育て支援では“親の代わりに子育てをするという支援ではなく、親が親としての自信を持って子育てができるようになるような支援をすることが大切である”ということである。

これは、育児でのいろいろな実体験をすることによって、子どもを知り、子育てに自信をつけるということである。しかし現代日本においてむしろ大切なことは、子育ては試行錯誤であり、「これでいいのだろうか、と思い悩む」ということがむしろ自然である、という感覚が持てるように支援することが大切である。そして、一生懸命に努力している自分自身に自信がもてるように支援することである。

## Ｃ－９－５　物理的だけでなく、精神的にも母親が孤立している

育児困難の大きな原因は、経験不足とともに、子育て中の母親の孤立である。「近所にふだん世間話をしたり、赤ちゃんの話をしたりする人はいますか」という質問の４

カ月児健診での結果を「大阪レポート」と今回の調査結果を比較すると（図 C-3-1)、「１～２名もいない」という、全く孤立している母親が 1980 年の１６％から 2003 年では３５％へと２倍以上に増加している。実に３人に１人の親が孤立している。この件については、本章第Ｃ－３節ですでに述べた。

今回の「兵庫レポート」の結果は、本章第Ｃ－３節に示したように物理的に母親が孤立している、というだけに留まっていないのが、大きな特徴である。「大阪レポート」では、「近所に話し相手」がいる母親は、いない母親よりも明らかに育児不安が少ないという結果が得られた。ところが、今回の「兵庫レポート」では、「近所の話し相手」の存在や「親子で一緒に過ごす子育て仲間」の存在は、意外なことに、母親の精神的安定に寄与していないのである。これはどういうことか、と考えると、人間関係の持ち方がきわめて表面的で、その場その場でまわりに合わすことばかりしているため、いくら話をしても母親の精神的な安定にはつながっていないのではないだろうか。ボランティア活動の中で見聞きする母親たちは、確かにそのような母親たちが多い。

これは、「いじめ」と常に背中合わせの学校生活を永年送っている間に、自然に身についてしまった自分の身を守る処世術ではないか、と考える。「とにかく目立たないように」「自分を出さず周囲に合わせる」という表面的な人とのかかわり方の中で、「競争心だけはきわめて強く、人を出し抜くことばかり考えている」という人間関係のもち方なのである。しかし、このような人とのかかわりの中では、精神的安定は得られない。むしろ、ストレスが溜まるばかりである。

これからの子育て支援では、従来のように、単に、「子育てサークルや子育てサロンをつくる」というだけでは不十分で、親と親をつなぐ、ということを意識的に取り組む必要がある。

### Ｃ－９－６　対人関係の脆弱性は、親自身の責任か

児童虐待が深刻化するなかで、親の対人関係の脆弱性が取り立たされている。確かに、現代の子育て世代は対人関係の持ち方がぎこちないことは確かである。しかし、それを親たちの責任と考えるのは的はずれである。すでに述べてきたように、「いじめ」と常に背中合わせの学校生活を永年送らざるを得なかったとか、予測可能性やマニュアル化、完璧を追い求める日本社会全体の思考とか、親になるための準備がほとんどできないままに子育てをしなければならないとか、どれを取っても今の子育て世代の責任ではなく、日本社会全体の問題なのである。

### 受け止め方で、精神的ストレスは変わる

最近、ストレス・マネージメントという学問分野が急速に進歩している。精神的ストレスの原因である「ストレッサー」の強さによって、個人にもたらされる「ストレス反応」の大きさが決まるかと言うと、そのようなことはない。同じ環境でもストレスを感じない人もいれば、強くストレスを感じる人もいる。そのような現実を思い起こすと、「ストレッサー」の強さによって「ストレス反応」の大きさが決まる訳ではない、ということは理解できると思う。

実は、「ストレス反応」の大きさは、「ストレッサー」をどう受け止めるか、によっ

て決まるのである。例えば、「子育てに悩んでいるのは、私だけだ」と思っている母親は強いストレスを感じる。そして、「私は母親失格ではないか」と悩んだりする。ところが、その母親が他の母親と交われるようになり、「みんな同じように悩みながら子育てしているんだ」「私もそれなりに頑張っている」と思えるようになると、子育てのストレスはずいぶんと軽減される。「完璧にしなければ‥‥」と思い込んでいるとストレスが溜まるが、「完璧な親なんていない」と考えられるようになるとずいぶん楽になるものである。

今必要な子育て支援のひとつは、そのような母親たちの思い込みを修正するような親支援プログラムである。ＮＰＯ法人こころの子育てインターねっと関西が取り組んでいるカナダでの子育て支援プログラム“Nobody's Perfect”は、まさにそのようなことを目的にしたプログラムである。今後、保健センターや子育て支援センターなどで広く実施していくべきプログラムだと考えている。

## Ｃ－１０　子育て仲間を求める母親たち
### ― 子育て支援・児童虐待予防の基本戦略 ―

本分担研究班のメンバーが中心的役割を担っている「ＮＰＯ法人　こころの子育てインターねっと関西」（ＵＲＬ；http://www9.big.or.jp/~kokoro-i/）の前身は、1980年代後半から日本全国に自然発生的に生まれた「子育てサークル」や「子育てネットワーク」、子育て情報紙など、子育て真っ最中の母親たちの自主的なグループ子育てに、現代日本の閉塞した子育て状況を打開する“希望の灯”を感じて、設立された親と専門職とで一緒につくるボランティア団体である。平成１６年１月からＮＰＯ法人として活動している。本節では、「子育てサークル」についての調査結果を検討する。

ここで取り上げる「子育てサークル」は、「大阪レポート」では調査項目にあがっていない。というのは、「子育てサークル」というのは 1980 年代後半から日本全国に自然発生的に生まれたものだからである。「大阪レポート」の基礎となった調査を分析していた頃には「子育てサークル」についての話題はまったく出て来なかった。筆者たちがその存在に気づいたのは、1990 年代に入ってからである。「ＮＰＯ法人　こころの子育てインターねっと関西」が設立された 1995 年当時は、「子育てサークル」という統一的な名称もなかった。

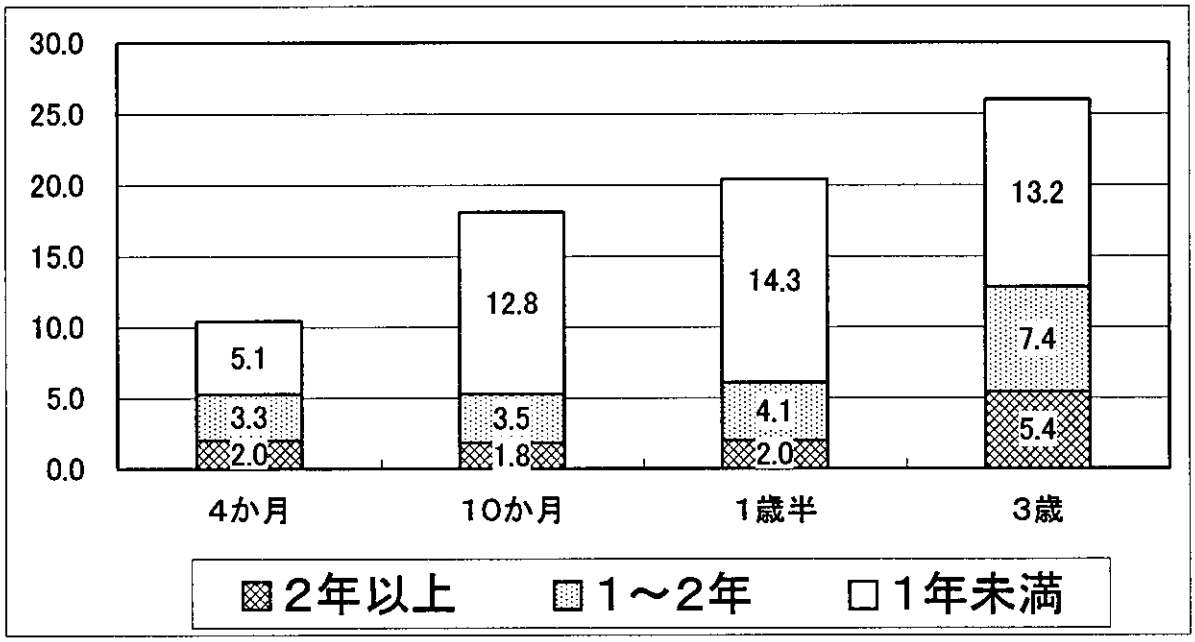
我々が子育て支援、特にグループ子育てへの支援活動をする中で感じていることは、専門職は子育てサークルに参加している母親たちを誤解していないか、ということである。専門職の方から、「子育てサークルに参加しているような元気な母親は支援する必要がない」とよく言われたものである。しかし、果たしてその認識は正しいのだろうか。本節では、子育て支援・次世代育成支援、児童虐待予防の基本戦略についても述べる。

さて、これまで報告した「兵庫レポート」の結果のほとんどは、我々がまったく予測できなかったものが多かった。本節で取り上げる「子育てサークル」に関する調査結果も、まったく予測できなかったものである。

## Ｃ－10－１．驚くほど多くの母親たちが「子育てサークル」に参加している

図 C-10-1 に「育児サークルに参加したことがありますか」および「育児サークルへの参加期間は？」の質問結果を示す。図 C-10-1 からわかるように、「子育てサークル」への参加率は児の月齢とともに急速に増加し、３歳児健診の時点では２６．１％にも達している。実に、４人に１人以上の母親が子育てサークルに参加しているか、参加した経験があるという結果である。この参加率は極めて高い値である。

**図 C-10-1 子育てサークルに参加したことがありますか。その期間は？（兵庫、2003 年）**




「母子カプセル」という言葉が一時よく使われたことがあるが、子育てにおいて母子が孤立することは、最も避けるべきことである。「子育てサークル」の自然発生的広がりは、まさに「母子カプセル」から親子を開放するものであり、筆者たちは大いに「希望の灯」を感じたものである。そして、この 10 年間、「子育てサークル」や「子育てネットワーク」などの「グループ子育て」を支え、広げることを主な目的に活動してきた。そのため、常に「子育てサークル」に関心を寄せて、「子育てサークル」の調査もこれまで３度実施してきた。[7～9] しかし、それらの調査は個々のサークルの活動状況やニーズ、抱えている課題などの調査であり、今回のような姫路市というある地域全体で、何パーセントの母親が子育てサークルに参加しているのか、という調査をしたのは初めてである。そして、こんなにたくさんの母親たちがサークルに参加していることに、ほんとうに驚くとともに、また新たな「希望の灯」を見る思いがしている。というのは、子育て仲間を求めるというのは極めて健康な志向であるからである。

## Ｃ－10－２．この１０数年間の「子育てサークル」の変貌

ところで、子育て支援・児童虐待予防にかかわっている専門職や行政担当者の方々の「子育てサークル」に対するイメージは、どのようなものであろうか。もともと「子

育てサークル」はどのようなニーズで生まれたのか、について聞き取り調査をすると、「子どもを集団の中で遊ばせたい、自然の中で遊ばせたい」という母親の願いから生まれたということがわかった。子育てサークルが自然発生的に生まれたひとつの大きな理由は、ついこの間まで、公立幼稚園が１年間だけしか子どもの保育をしていなかったことである。だから、1990年代の後半までの子育てサークルに集まる子どもたちの年齢は３～４歳ぐらいが主体で、集団遊びができる年齢の子どもたちとその親たちが集まっていたのである。

ところが、筆者たちがボランティア団体『こころの子育てインターねっと関西』を立ち上げた頃（1995 年）から、妊婦さんや０歳の赤ちゃんを持った母親から、「サークルはありませんか」という電話がかかってくるようになっていた。一緒に活動していた母親リーダーたちが、「サークルといっても、まだ子どもは遊べないのに‥‥？」と、不思議がっていたことを思い出す。

妊婦さんや赤ちゃんを育てている母親からのサークルに関する問い合わせは、「私の子育て仲間がほしい」という要求から出てきたもので、とても健康な欲求である。「私は子どもについてよく知らない。どうかかわってよいのか分からない」ということを自覚し、他のお母さんたちはどうしているのか、「話をしたい」という要求がたくさん出てきたのである。これはとても健康な欲求である。

ところが、少子化が進む中で３～４歳の子どもたちは保育園や幼稚園に取り込まれてしまった。そのため、ほとんどの子育てサークルは０・１・２歳の子どもの親が中心になっている。図Ｃ－10－１からも、子どもがまだ０・１・２歳からサークルに参加していることがわかる。しかし、集まる子どもの年齢が変わると、子育てサークルの中身は変わらざるを得ない。３～４歳ぐらいが主体だった頃は、子どもの集団遊びが可能であった。しかし、０・１・２歳の子どもでは、まだ子どもどうし遊ぶというところまでは発達していない。当然「子育てサークル」の活動の中身は母親主体のものに変わらざるを得ない。

以前も今も「子育てサークル」というように同じ名前で呼ばれているが、「子育てサークル」の中身は、ここ 10 年間に大きく変わってしまったのである。そのことをしっかりと認識する必要がある。

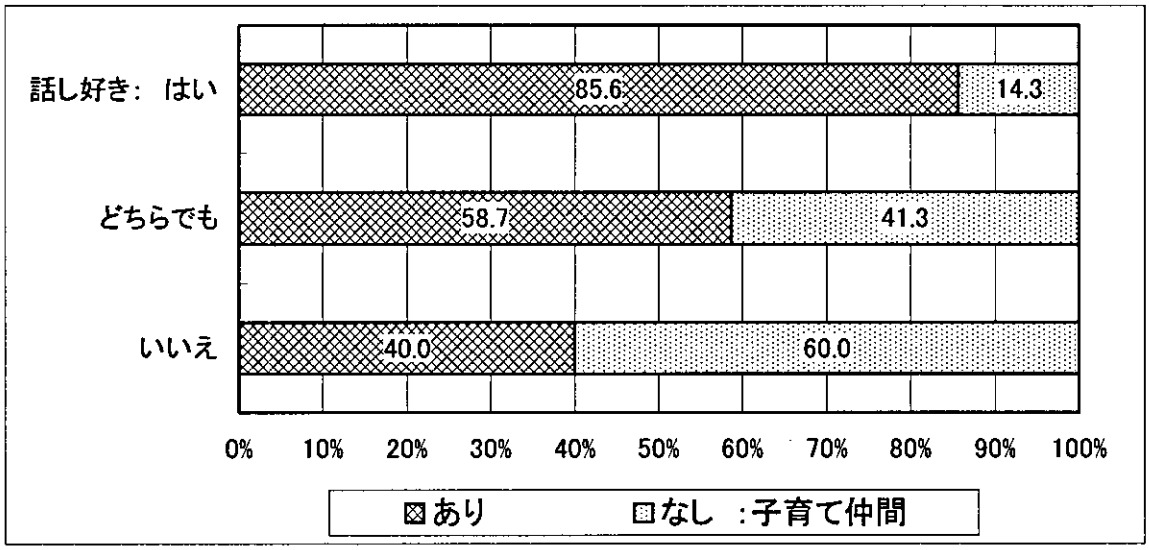
### Ｃ－10－３　「子育てサークルに参加するような元気なお母さんなんか、支援の必要はない！」は当っているか

ところでどんな母親が「子育てサークル」に参加しているのであろうか。ＮＰＯ法人　こころの子育てインターねっと関西では、「子育てサークル」や「子育てネットワーク」などの「グループ子育て」を支援している。ところが、立ち上げた当時から、保健師などの専門職からは、「私たちはもっと深刻なケースを抱えている。そんなサークルに参加するような元気なお母さんなんか、支援の必要はない！」という批判をよくされてきた。しかし、この調査結果では、子育てサークルに参加している母親は、専門職が想像するような元気な母親ではないことが判明しているのである。

今回の調査では、「育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりするのが好きですか」という質問をしている。この質問に「はい」と答える母親は、「近所でふだん世

間話をしたり、子ども（赤ちゃん）の話をする人」が「いる」母親が多く、また図 C-10-2 に示すように「親子で一緒に過ごす子育て仲間」が「いる」母親が多いという結果が出ている。「おしゃべり」が好きで社交的な親は、自分で子育て仲間を見つけていることがわかる。それはそれでいいのであり、本来の姿であるとも言える。しかし、図 C-10-2 からわかるように、そのような母親でも１４．３％（７人に１人）は、少子化の中で子育て仲間が見つけられない親もいるのである。一方、後で触れるが、「母親が集まればいい」というものでも当然ない。集まるとそこが子育て競争の場になることも十分考えられるからである。

**図C－10－2 「育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりするのは好きですか」と「親子で一緒に過ごす子育て仲間はいますか」とのクロス集計（1次調査）**




さて、子育てサークルにはどのような母親が集まっているのであろうか。一般には「育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりするのが好き」な母親たちが「子育てサークル」に多く参加しているのではないか、と想像されていると思う。ところが、調査結果ではそうはなっていないのである。図 C-10-3 に「育児サークルに参加したことがありますか」と「育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりするのが好きですか」とのクロス集計結果を示す。図 C-10-3 をみると、話好きな母親の方が少しサークル経験が多いように見えるが、統計的には多いとは言えず、これら２つの質問の間には相関関係はない。言い換えると、子育てサークルに参加している母親はごく普通の一般的な母親で、「おしゃべり」が好きではない母親も多く参加しているのである。「おしゃべりが好きではない」「人づきあいが得意ではない」と自覚している母親が参加していることが、何よりも重要なことである。

ところで、「人づきあいが得意ではない」という母親たちがなぜ、「子育てサークル」には参加できるのであろうか。それは、「子育てサークル」が、人づきあいが得意ではない」という人も気軽に参加できる何か仕組みを持っているということである。もう２０年も前になると思うが、「小学生が学校で遊ぶ約束をしていないと、帰宅後友だちの家に遊びに行けない」ということが話題になったことである。「子育てサークル」も

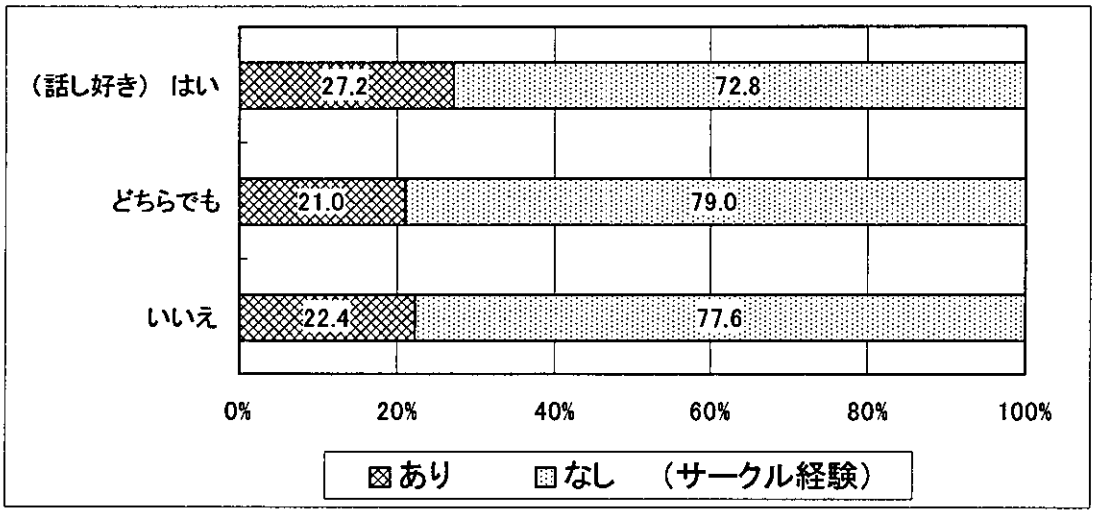
同じではないかと考える。すなわち、「子育てサークル」は場所と時間が決まっているため、すなわち約束ができているため、「人づきあいが得意ではない」という母親も参加しやすいのである。

ここから出てくる児童虐待予防策は、

**児童虐待予防対策⑯：子育てサークルやつどいの広場・子育てサロンをあらたにつくること、そして親自身が主体的に運営できるように支援すること**

である。

**図 C-10-3「育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりするのが好きですか」とサークル経験の有無とのクロス**




## C－10－4．「子育てサークル」への参加のメリットは？

「子育てサークルへの参加はどのような点でよかった」と母親たちは考えているのであろうか。図 C-10-4 には３歳児健診での「子育て仲間ができて、特に感じることを３つまで○をつけてください」と「子育てサークルに参加して、特に感じることを３つまで○をつけてください」という質問での、項目ごとに○のついた率を示している。図 C-10-4 からわかるように、２つの質問の結果は類似していて、「子どもの遊び友だちができた」「子育て情報が得やすくなった」「子どもへのかかわり方の参考になった」「母親の友だちができた」の４項目が５０％前後を占めている。

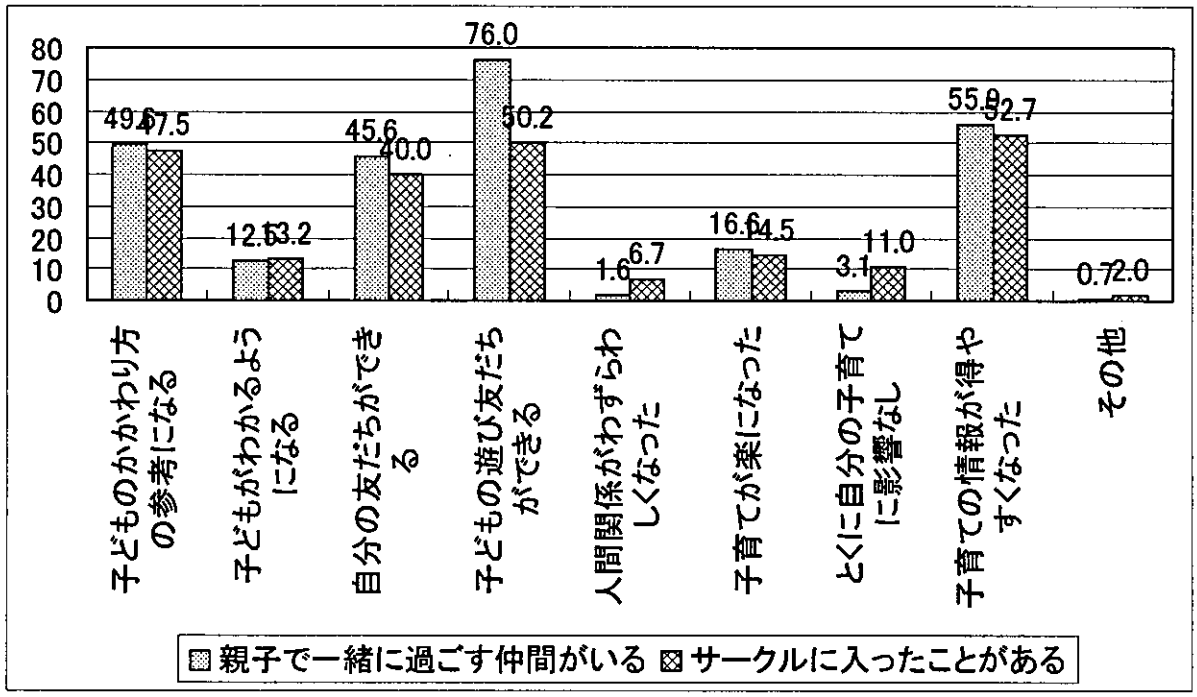
特に「子育てサークル」を長く経験している母親の特徴として、「子どもを外で遊ばせる」母親が多いこと、「母親の友だち」「子どもの友だち」が多いことがわかっているが、子育てにおける「イライラ感」や育児不安、負担感などの精神的ストレスの軽減にはそれほど目立った効果はあらわれていないことも判明している。これらの結果からも児童虐待予防策としてすでに述べた

児童虐待予防策⑧「親どうしのグループ子育ての推進」、

児童虐待予防策⑨「親と親を積極的につなぐコーディーターの育成」、

児童虐待予防策⑮「子育てサークルやつどいの広場・子育てサロンをあらたにつくること、そして親　自身が主体的に運営できるように支援すること」
児童虐待予防策⑯「子育てサークルやつどいの広場、子育てサロンなどが、親の仲間づくりをコォー　ディネートできるように機能アップを図ること」
などが浮かび上がってきたのである。

**図 C-10-4　子育て仲間ができて、あるいは「子育てサークル」に入って、特に感じることは？**
**（3つまでの複数回答、兵庫、3歳児健診）**




## C－10－5　子育て支援、次世代育成支援、児童虐待予防の基本戦略
### ― 親を運転席に！支援職は助手席に！ ―

表 C-10-1 に「子育て支援の基本戦略」を示す。これは本分担研究班の原田正文が著書『子育て支援とＮＰＯ』[10] の中で提起したものである。基本戦略の考え方は、“大多数の親子への支援は、市民主体の「子育てネットワーク」を軸にして、グループ子育てを広げることにより進める。行政や公的機関は個々の親にではなく、「子育てネットワーク」や「子育てサークル」への支援を通して子育て支援の全地域への浸透をはかる。そして、現実に児童虐待がおこっているような困難事例については、専門職が前面に立って積極的にかかわる、というものである。

「３歳児健診時点で、４人に１人の母親が子育てサークルに参加したことがあり、しかも参加している母親はごく普通の母親である」という「兵庫レポート」の調査結果は、今後グループ子育てを軸にして子育て支援を進めていくことの妥当性を示している。支援の方法次第では、子育てサークルは今後とも広がると考えられる。問題は、子育てサークルの質をどう確保するか、である。特にここ 10 年ほどは、子育てサーク

ルは子どもの年齢が小さいので、子どもを遊ばせるというよりは“母親の仲間づくり”が主体になっている。しかし、親どうしをつなげる、というノウハウは親たちにはないと思われる。また、日本のどの専門職にもない専門性である。

表C-10-2に「グループ子育てのメリット」[10]をあげているが、子育てサークルが表C-10-2にあげたような「グループ子育てのメリット」を真に実現するような機能を備えるためには、ファシリテーターが必要ではないか、と筆者たちは考えている。

ＮＰＯ法人　こころの子育てインターねっと関西では、2003年４月より、カナダの親支援プログラム“Nobody's Perfect”を取り入れて、日本での普及活動に取り組んでいる。（資格認定機関 Nobody's Perfect Japan ＵＲＬ：http://homepage3.nifty.com/NP-Japan/ 参照）。“Nobody's Perfect”プログラムそのものは、表C-10-3に示すとおり、資格のあるファシリテーターがプログラムをすすめるものであり、対象は０歳～５歳の子どもを育てている親、人数は20人を越えない少人数、10人くらいが適当、週１回、６～10回連続、子どもには一時保育をつけ、親子分離で行う参加型のグループワークである。しかし、トレーニングされたファシリテーターが１～２か月に１度、子育てサークルに加わり、“Nobody's Perfect”のような親たちの話し合いをファシリテートすると、そのサークルの質は格段に高まることは実証されている。そのような子育てサークル支援が今求められているのではないだろうか。

**表C-10-1　子育て支援の基本戦略（ストラテジー）**
**― 親を運転席に！支援職は助手席に！ ―**

（１）大多数の親子への支援は、市民主体の「子育てネットワーク」を軸にして、グループ子育てを広げることにより進める。行政や公的機関は「子育てネットワーク」を直接支援することにより、子育て支援の全地域への浸透をはかる
①グループ子育ての場に参加できる親の層は、できるだけそこで支援していく
②親子の出会いの場を増やし、ひとりぼっちの親をなくす取り組みを進める
③「子育てサークル」などが、グループ子育ての場としての本来の機能が発揮できるように支援する。特に、「子育てサークル」のリーダーを支える
④市民主体に、学習を組織していく
（２）困難事例には、専門職が前面に立って積極的にかかわる
（３）地域全体を視野に入れた「子育て支援ネットワーク」を各市区町村につくる
（４）時代に見合った新しい園・学校づくりを進める
（５）次世代の親育てに、学齢期からしっかりと取り組む
（６）「子育てをする人生を選んで、良かった！」と言えるまちづくりを進める
上記（１）と（２）がストラテジーの基本的志向である。（３）～（６）も（１）の「子育てネットワーク」の育成支援を軸にして展開するものである

ここから出てくる児童虐待予防策は

**児童虐待予防対策⑱：子育てサークルやつどいの広場、子育てサロンなどが、親の仲間づくりをコォーディネートできるように機能アップを図ること**

である。

**表 C-10-2　グループ子育ての六つの「目的とメリット」**

| |
|---|
| ①イキイキと遊べる仲間と空間、時間を子どもに保証できる |
| ②母親の仲間づくりができ、育児不安が解消できる |
| ③いろいろな親子をみることにより、子どもとのかかわり方が自然に学べる |
| ④親子ともどもに対人関係のトレーニンクができる。特に社会性が育つ |
| ⑤子育てなどについての“学習の場”がつくれる |
| ⑥親同士のつながりが生まれることにより、いじめや非行などに対する地域の問題解決能力が高まる |

**表 C-10-3　Nobody's Perfect プログラム規定**

（Nobody's Perfect Japan の規約より）

| |
|---|
| 1．ＮＰプログラムの社会的評価を確保するため、「Nobody's Perfect プログラム」と称して親支援プログラムを実施する際には以下の条件を満たさなければならない。この条件に満たないものは「Nobody's Perfect プログラム」と称してはならない。<br>（1）　認定資格のある Nobody's Perfect ファシリテーター（Nobody's Perfect Japan 認定ファシリテーター）が実施すること。ただし、Nobody's Perfect ファシリテーター養成講座修了者が、資格認定のために実施する場合は例外とする。また、全回を通し、同じファシリテーターが担当することを原則とする。<br>（2）１回約２時間のセッションを、原則として週１回、連続して６回以上開催すること。<br>（3）対象は、就学前の乳幼児の親であること。<br>（4）保育つきとし、親だけのグループでの実施を原則とすること。<br>（5）２０人を越えない少人数で実施すること。<br><br>2．ＮＰプログラムは予防的プログラムであり、専門的な個別対応を必要とする危機的状況や深刻な問題をかかえる家族を対象にしたプログラムではない。 |

## Ｃ－10－６　公的子育て支援が真に機能するための１５のチェック・ポイント
### —市民活動と公的支援との連携のために —

分担研究者は、この１０年間、子育て支援のボランティア活動を行ってきた。この間、市民活動と公的子育て支援の関係についてずいぶん考えさせられた。公的機関が地域の状況を把握しないままにつくった子育てサークルのために、親たちが 10 数年来自主的に運営してきた子育てサークルが消滅していくという現状を見たり、親たちがつくりあげた子育てサロンという取り組みを、行政がすぐに真似して、市民のつくったサロンがなりゆかなくなるという現状を見たりして、公的子育て支援に対して不信感を募らせた時期もあった。

しかし、最近は市民活動と公的機関の役割とをかなり分けて考えるようにしている。生活に密着したニーズをいち早くキャッチして、具体的に取り組むことは行政にはできない市民活動ならではのものと考えている。そして、行政はその中で効果的なものを取り上げ、日本全体に広げていく役割、と割り切って考えるようにしている。行政が取り入れて広げていく際に、その取り組みの質を確保していくことは、本来公的機関が自分で担うべきことである。しかし、市民活動と行政が連携しない限り、それも無理のようである。そのため、公的子育て支援の質を高めていく仕事にも市民活動が一役を担う必要があると最近では考えている。

表 C-10-4 に公的子育て支援が本当に機能するための 15 のチェック・ポイントを示している。公的子育て支援が親主体の市民活動や親自身のセルフヘルプ・グループの活動の妨げにならないように、公的機関や専門職が留意すべきことを列挙している。

子育て支援は、市民活動や親自身の主体的取り組みなしには成功しないものである。この 10 年間、国を挙げて少子化対策、子育て支援、児童虐待防止などの施策を進めてきたが期待どおりの成果は上がっていない。そればかりか、子育て現場の状況はますます悪化しており、少子化の進行も停まる気配がない。何よりも、1980 年後半から自然発生的に広がってきた親主体の「子育てサークル」や「子育てネットワーク」などの取り組みは衰退の一途をたどっている。公的子育て支援が真に実効をあげるためには、表 C-10-4 の 15 のチェック・ポイントに従いこれまでの事業を再評価する必要がある。そして、**表 C-10-1 の「子育て支援の基本戦略（ストラテジー）」に示した「親を運転席に！　支援職は助手席に！」という姿勢を徹底すべきではないだろうか。**

**表 C-10-4　公的「子育て支援」がほんとうに機能するための、十五のチェック項目**

① 「子育て支援は、子育てしやすい地域づくり・社会づくりである」ということを職員全体で、はっきりと確認しあって、仕事をされていますか。

② 参加した親同士をつなぎ、親同士で助け合い、支え合えるような親同士のつながりを意識してつくろうとかかわっていますか。

③ 子育ては日常の営みです。子育て支援が単なる非日常のイベントになっていませんか。

④ 自分の施設の事業にしか目がいっていないことはありませんか。市域全体の親子の数の内、何パーセントの子育て家庭に支援ができているかという視点を持ち、事業の評価・検討ができていますか。

⑤ すべてを専門職が準備をし、市民をお客さんとして招くというスタイルになって

いませんか。

⑥ 専門職が前で何かをして、親子を楽しませるというスタイルではなく、親が地域や家庭に帰ってから役に立つような子どもへの関わり方を伝えていますか。

⑦ 園庭開放や子育てサロンに参加した母親たちの子育ての「生の声」を聞いていますか。また、それを一般社会に向かって発信していますか。

⑧ 参加者のニーズに合わせて、積極的に新しい企画を取り入れていますか。職員のキャパシティーがないという理由で、参加者のニーズは聞かない、ということになっていませんか。

⑨ 子育て支援をすすめる上で、市民活動は無くてはならない行政や公的機関のパートナーである、と認識されていますか

⑩ 自分の施設の周囲の市民活動を把握していますか。また、それらを活性化することを目的に事業を組み立てていますか。

⑪ 自分の施設あるいは市域全体での市民活動を把握し、そこに欠けているものを補おうという姿勢で事業を組み立てていますか。

⑫ 乳幼児期（あるいは就園前）の子どもとその親だけしか考えていない子育て支援になってはいませんか。言い換えますと、思春期を見通した子育て支援、が考えられていますか。

⑬ 次世代の親育て、という位置付けで、小・中・高校生などを積極的にボランティアとして受け入れていますか。

⑭ 「専門職が直接」というスタイルでは、仕事量が大きすぎるという認識のもと、ボランティアの養成や導入、あるいは、事業自体を市民にまかせて運営するということができていますか。

⑮ 子育て支援をする中で気がついた必要な手立て、例えば「小学生が遊べる時間と仲間、空間」がないので、社会が意識的に小学生の遊べる条件づくりをしていかなければいけない、というような提案や実践ができていますか。

注：原田正文著：「子育て支援とＮＰＯ　― 親を運転席に！　支援職は助手席に！」（朱鷺書房、2002 年）より引用

## D　結語

### 人間関係が希薄になった現代

「兵庫レポート」を分析するなかで、筆者たちが奇異に感じていることは、「近所の話し相手」や「子育て仲間」の存在が母親の精神的安定にほとんど寄与していないことである。たとえば、「イライラ感」について見ても、「近所の話し相手」や「子育て仲間」の有無は、イライラの度合いとは関係していなかった。これは育児不安についても同様の結果であった。一方、20数年前の「大阪レポート」では、「近所に話し相手」がいる母親は、育児不安が少ない、というはっきりとした結果が得られている。

これはどういうことであろうか。これは人間関係の希薄化がその原因ではないか、と筆者たちは考えている。確かに、近所に子どものことについて話す人はいる、親子で一緒に時間を過ごす子育て仲間もいる。しかし、親同士のつきあいは表面的なものであり、話すことにより不安が解消したり、イライラがおさまるという関係にはなっていないのである。

現代の親たちの人間関係の希薄さはよく指摘されている。今回の調査では、子育て現場にも人間関係の希薄さがはっきりとあらわれていることが実証された、と言える。現代の親たちの人間関係の希薄さは、「いじめ」の風景の中で長期間学校生活をおくってきたことが原因のひとつではないか、と筆者らは考えている。

ＮＰＯ法人こころの子育てインターねっと関西では、設立当初の1995年以来、「“孤立・不安・競争の子育て”から脱し、“安心と信頼、協同の子育てを！”」という標語をかかげている。「兵庫レポート」のデータを分析するなかで、ますますこの標語の実現の重要さを感じる。

### 多くの被虐待児の排出を防ごう！

現在、児童虐待がマスコミなどで大きく取り上げられている。虐待事例を把握し、対策を考えている行政も多くなっている。確かに、死にいたるような虐待に対する対応も必要である。しかし、筆者が特に気になっているのは、ケースとしては上がって来ないような軽いものである。というのは、子どもの心の発達は乳幼児期の子育て環境、特に親子関係に大きく左右されるからである。精神科「小児・思春期」専門外来では、「私は幼稚園の頃から、何で生まれてきたのだろう。お母さんが怖かった。母親の顔色を見て、叱られないように、ひたすら母親の意に沿うように、先々に何でもしてきたので、いい子、手のかからない子と言われてきた。だれど、私はずっと怖くて寂しくて、生まれてくるんじゃなかった、と思いつづけてきた」と訴える若者が多い。また、自分の子どもを産んで初めて自分の子ども時代を振り返り、かわいそうだった幼少期の自分を思い出し、精神的不調に陥る母親も多い。子育てにおける母親のストレスが溜まっているということは、今現在苦しい幼少期を体験している子どもたちが多いということである。筆者が気になるのは、虐待事例としては上がらないそのようなケースである。その数は虐待事例の数十倍、数百倍に達すると考えられる。乳幼児期の不適切な親子関係により、思春期に入り精神的不調に陥る事例を少なくするためにも、現在の子育て環境を改善する必要があると考える。

**親と親をつなぐ地域母子保健活動を！**

乳幼児健診を市町村が実施するようになり、90%以上の親たちが健診に訪れるようになっている。また、子育てサークルや子育てサロンなどに参加する母親も予想以上に多いことが本研究班の調査でわかった。ほとんどの親たちは、健診にさえ、自分の子育て仲間が欲しいというニーズで参加している。しかし、健診をはじめ、子育てサークルやサロンなどに参加しても、そこで期待どおり子育て仲間がえられるか、というと心もとない気がする。

今求められている地域母子保健活動は、「親と親をつなぎ、親を育てる」という活動である。これは、従来から社会教育の分野では課題としてあげられてきたものである。しかし、医療・保健・福祉分野では、個別のケースに焦点を当ててかかわってきた。そのため、「親と親をつなぎ、親を育てる」という概念は存在しなかったし、グループ・ワーク的な手法もほとんど使われていなかった。今後は、本報告の中で何度か紹介しているカナダの親支援プログラム「Nobody's Perfect」に代表されるような、親参加型のグループ・ワークの手法が重要になってくると考える。

最後に、この研究報告ではあまり取り上げなかったが、「兵庫レポート」を分析するなかで、安心して子どもを生み育てられる社会の実現では、男女協同参画社会の実現と働き方の見直しがぜひ必要だと強く感じている。

## E　児童虐待予防対策の提言

本研究結果から浮かび上がった児童虐待予防策を以下に提言として列挙する。

**①　子育て現場の実情をまず正確に把握しよう！**

**②　子育て真っ最中の親たちの生の声を聞こう！**

**③　親を親として育てるための親支援プログラム（Nobody's Perfect など）を全国で広汎に実施すること**

**④：小・中・高校生や大学生など、将来親になる世代が乳幼児と触れ合う機会を意識的に作り、親になるための準備性をはぐくむこと**

**⑤：「母子カプセル」状態で孤立している母子を孤立から救い出すこと**

**⑥：現代に見合った子育てインフラの整備**

**⑦：従来型の相談窓口とは一味違った、親が子育てや子どものことについて、気軽に相談できる場の確保**

**⑧：親どうしが安心して話ができ、支えあえるグループ子育ての推進**

**⑨：親と親を積極的につなぐコーディーター・ネットワーカーの育成**

⑩：小・中・高校生など次世代の親たちを育てるプログラムの開発とその積　極的な実施

**⑪：母親自身の時間が持てるような子育て環境の整備**

**⑫：体罰を使わなくても済む子育て方法のスキル・アップ**

**⑬：子育てにおける体罰の弊害についての啓発活動の展開**

**⑭：望まない妊娠を防ぐ性教育の充実**

**⑮：子育て家庭の経済的安定化を図る若者施策の充実**

**⑯：日本人の働き方の見直し、親がいきいきと子育てができ、しかも社会参加**

できる社会の実現

⑰：子育てサークルやつどいの広場・子育てサロンをあらたにつくること、そして親自身が主体的に運営できるように支援すること

⑱：子育てサークルやつどいの広場、子育てサロンなどが、親の仲間づくりをコーディネートできるように機能アップを図ること

**謝辞**

本研究の実施に当たっては、兵庫県姫路市および大阪府茨木市のみなさまをはじめ多くのみなさまのご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

**参考文献**

1)服部祥子、原田正文著:『乳幼児の心身発達と環境 ―「大阪レポート」と精神医学的視点』(名古屋大学出版会、1991 年)

2)原田正文著:『育児不安を超えて ― 思春期に花ひらく子育て ― 』(朱鷺書房、1993 年)

3)原田正文、中川千恵美、雲井弘幸、大野まどか、服部祥子他:『児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究』(平成 14 年度、厚生科学研究(こども家庭総合研究事業)報告書、2003 年4月、PP. 211－236)

4)原田正文、中川千恵美、雲井弘幸、大野まどか、服部祥子他:『児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究』(平成 15 年度、厚生科学研究(こども家庭総合研究事業)報告書、2004年4月、PP. 484－525)

5)宮本みち子著:若者が《社会的弱者》に転落する、洋泉社、2002 年

6)足立己幸著:知っていますか、子どもたちの食卓 ― 食卓からからだと心が見える ― 、NHK出版、2001 年

7)三沢直子著:殺意をえがく子どもたち、学陽書房、1999

8)無明舎出版編集部:雪国はなったらし風土記、無明舎出版、2001 年

9)こころの子育てインターねっと関西:あなたのまちの子育てサークル Vol.1、こころの子育てインターねっと関西、1996.

10)こころの子育てインターねっと関西:あなたのまちの子育てサークルVol.2、こころの子育てインターねっと関西、1998.

11)こころの子育てインターねっと関西:あなたのまちの子育てサークルVol.3、こころの子育てインターねっと関西、2001.

12)原田正文著:子育て支援とNPO ― 親を運転席に! 支援職は助手席に! ― 、朱鷺書房、2002)

## 保護者の皆様へ

このアンケートは、保護者の皆様の子育てに関するニーズや日常の状況などを把握し、姫路市の子育て支援施策に役立てるとともに、地域における児童虐待予防のための対策を探求する厚生労働省の厚生労働科学研究の一環として実施するものです。

近年、全国的に児童虐待事例が増加し、そのひとつひとつが非常に深刻な状況となる傾向があります。このような現状を踏まえ、より効果的な子育て支援施策に反映させるため、児童虐待に関する質問もいくつか含まれていますが、以上の目的をご理解の上、どうぞご協力ください。

アンケートは無記名で、しかも統計的に処理をしますので、個人情報が他にもれることは一切ありません。子育てをされる中で、日ごろ感じておられることを、率直にお答えいただければ、と思います。

なお、アンケートは、健康診査の直前にご記入いただき、**健診当日にご持参くださいますようお願いいたします。**

このアンケートに関しまして、何かご不明の点がありましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先：　姫路市保健所　健康課
TEL 0792－89－1676
FAX 0792－89－0210
担当：　八木　山下

# 姫路市乳幼児健診時アンケート（1歳6か月児健診）

アンケート記入日　　月　　日

アンケートを記入された時のお子さんの月齢１歳（　　）か月（　　）日　男・女
このアンケートにご記入いただくのは　お母さん・お父さん・その他（　　）
お子さんの主な養育者は　　お母さん・お父さん・その他（　　）

※　以下の質問について、該当する番号に○をおつけください。できるだけお子さんの主な養育者の方がお答えください。お母さん以外の方が養育者である場合は、わかる範囲でお答えください。

**1．お子さんの最近の様子をお聞きします。**

(1) 食事についてお聞きします。何時頃に何分ぐらいで食べていますか ……
朝食（　時頃：　分位で）　昼食（　時頃：　分位で）　夕食（　時頃：　分位で）

(2) 夕食はどのように食べていますか …… ①家族みんなで食べる　②父親以外みんなで食べる
③子どもだけで食べる　④その他（　　）

(3) 食事の時、お子さんはどうしていますか …… ①スプーン、フォークを持って食べようとしている
②手づかみで食べている　③親が全部食べさせている
④その他（　　）

(4) 食事など何も与えないことがありますか …… ①ない　②ときどきある　③よくある

(5) 食事はテレビを見ながら食べていますか …… ①はい　②ときどき　③いいえ

(6) お子さんの食事で特に気をつけているもの2つに○をつけてください …… ①食べる量　②栄養のバランス　③しつけ
④清潔　⑤食べる楽しみ　⑥その他（　　）

(7) 母乳についてお聞きします …… ①今も飲ませている　②（　）歳（　）か月まで飲ませていた　③人工乳のみ

(8) お子さんは、朝目覚める時間と夜眠る時間がだいたい決まっていますか …… ①はい　②いいえ
「はい」の方にお聞きします。目覚める時間　朝（　）時頃、　眠る時間　夜（　時頃）

(9) お子さんは、昼寝をしますか …… ①はい（　時間くらい）　②いいえ

(10) 入浴の間隔はどのくらいですか …… ①1日に1回　②2～3日に1回　③1週間に1回くらい

(11) トイレットトレーニング（おしっこ）は始めていますか …… ①始めている　②そろそろ始めようと思う
③もう少し先にしようと思う　④まだ考えていない　⑤完了した（昼間）

(12) お子さんが一人でテレビやビデオを一日どのくらい見ますか …… ①見ない　②30分前後　③1～2時間
④3～4時間　⑤5時間以上

(13) やけどをしたことはありますか …… ①はい ②いいえ
(14) 大きなけがをしたことはありますか …… ①はい ②いいえ
(15) 近所に子どもの遊び場になるような場所(公園・広場など)がありますか …… ①はい ②いいえ

**2. お子さんの育児についてお聞きします。**

(1) 育児でいらいらすることは多いですか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(2) お子さんが何を要求しているかわかりますか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(3) お子さんにどうかかわったらいいか迷う時がありますか …… ①よくある ②ときどきある ③ない
(4) 育児に自信がもてない、と感じることがありますか …… ①よくある ②ときどきある ③ない
(5) お子さんをかわいいと思いますか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(6) お子さんと一緒にいると楽しいですか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(7) 子育てを大変と感じますか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(8) お母さんは赤ちゃんの世話をしたり遊ぶ時、話しかけますか … ①いつもよく話しかけている ②よく話しかけている ③まあまあ話しかけている ④あまり話しかけていない
(9) 天気の良い日、外で遊ばせますか …… ①よくある ②ときどきある ③ない
(10) お子さんと一緒に遊ぶ同年代の子どもがいますか …… ①数名いる ②1～2人いる ③ほとんどいない
(11) 排泄や食事の世話以外にお子さんと遊んだり散歩したりする時間は一日どのくらいですか … ①2時間以上 ②1時間くらい ③30分くらい ④ほとんどない
(12) お子さんが病気の時、主に看護するのは誰ですか …… ①お母さん ②お父さん ③母方祖母 ④母方祖父 ⑤父方祖母 ⑥父方祖父 ⑦保育所(園) ⑧その他( )
(13) 育児の手伝いをしてくださる方はありますか …… ①はい ②いいえ
「はい」の人にお聞きします。それは誰ですか (当てはまる人に○、いくつでも可) …… ①夫 ②妻 ③母方祖父母 ④父方祖父母 ⑤兄弟姉妹 ⑥親戚 ⑦近隣 ⑧その他( )
(14) お子さんを一人で置いたまま出かけることはありますか … ①ない ②ときどきある ③よくある
(15) 育児のことで今まで心配なことがありましたか …… ①しょっちゅうあった ②ときどきあった ③あまりなかった
・(14)で①、②と解答した方にお聞きします。誰かに相談しましたか …… ①相談した ②相談しなかった ③どうしていいのかわからなかった
・上の問いで「相談した」と回答した方は、誰に相談しましたか (当てはまる人に○、いくつでも可) …… ①夫 ②妻 ③母方祖父母 ④父方祖父母 ⑤兄弟姉妹 ⑥親戚 ⑦友人 ⑧近隣 ⑨医師 ⑩保健師 ⑪保育士 ⑫看護師・助産師 ⑬電話相談 ⑭その他( )
(16) 子育ての心配は、そのつど解決しましたか …… ①解決した ②ほぼ解決した ③解決しなかった
(17) 育児の中で一番心配なときは、いつでしたか (一つに○) …… ①出産入院中 ②退院直後 ③退院から1か月 ④1～2か月 ⑤2～3か月 ⑥3～6か月 ⑦6～10か月 ⑧1歳前後 ⑨現在
(18) 育児について心配なとき、一番たよりにする人はだれですか ……①夫 ②妻 ③母方祖父母 ④父方祖父母 ⑤兄弟姉妹 ⑥親戚 ⑦友人 ⑧近隣 ⑨医師 ⑩保健師 ⑪保育士 ⑫看護師・助産師 ⑬電話相談 ⑭その他( )
(19) お父さんは育児に協力的ですか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(20) お父さんはお子さんと一緒に遊びますか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(21) お父さんと一緒にいる時のお子さんの様子はどうですか … ①喜んでそばに行く ②遊んでもらうと喜ぶ ③お母さんと二人の時とかわらない ④機嫌が悪くなる
(22) 育児の事について夫婦でよく話し合いますか …… ①はい ②ときどき ③いいえ

**3. お子さんの毎日の様子をよく観察して、お答えください。(なお、まだ月齢に達していないため、できない項目も含まれています。そのため、お子さんがまだできないからといって気になさる必要はありません)**

(1) 10m以上歩きますか …… ①はい ②いいえ
(2) 片手をひくと階段を昇りますか…… ①はい ②いいえ
(3) 走ることができますか …… ①はい ②いいえ
(4) 気分がのると音楽に合わせて手・足・指を動かしますか …… ①はい ②いいえ
(5) 砂いじりをしますか …… ①はい ②いいえ
(6) 水や砂などを容器に移し替えて遊びますか …… ①はい ②いいえ

(7) 「～をとってきて」など簡単な言いつけを理解し、行動しますか … ①はい ②いいえ
(8) 絵本を見て「ワンワンどれ？」と聞くと指さしますか …… ①はい ②いいえ
(9) 困ったことがあると助けを求めますか …… ①はい ②いいえ
(10) パパ、ママ、ワンワンなど意味のあることばを言いますか …… ①はい ②いいえ
(11) 小さい子どもを見ると近づいて、服やからだなどをさわりますか … ①はい ②いいえ
(12) 積み木やブロックなどを2～3個積み上げて遊びますか …… ①はい ②いいえ
(13) 少し離れたところからボールをやりとりできますか …… ①はい ②いいえ
(14) 階段一段くらいの高さのところから飛び降りますか …… ①はい ②いいえ
(15) まねをしてグルグル円を描けますか …… ①はい ②いいえ
(16) 食べ物以外の物は口に入れなくなってきましたか …… ①はい ②いいえ

**4. その他、次の事をおたずねします。**

(1) 近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人がいますか … ①数名いる ②1～2名いる ③いない
(2) 育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりするのは好きですか …… ①はい ②どちらでもない ③いいえ
(3) 親子で一緒に過ごす子育て仲間がいますか …… ①はい ②いいえ
　1) 「はい」の方にお聞きします。子育て仲間ができて特に感じるところを3つまで○をつけてください。
　　a) 子どもへの関わり方の参考になった　b) 子どものことがわかるようになった　c) 自分の友人ができた
　　d) 子どもに遊び仲間ができた　e) 人間関係がわずらわしくなった　f) 子育てが楽になった
　　g) 特に自分の子育てには影響しなかった　h) 子育ての情報が得やすくなった　i) その他（　　）
(4) 育児サークルに参加したことがありますか …… ①はい ②いいえ
　1) 「はい」の方にお聞きします。どのくらいの期間ですか …… ①2年以上 ②1年～2年 ③1年未満
　2) 「はい」の方にお聞きします。特に感じるところを3つまで○をつけてください。
　　a) 子どもへの関わり方の参考になった　b) 子どものことがわかるようになった　c) 自分の友人ができた
　　d) 子どもに遊び仲間ができた　e) 人間関係がわずらわしくなった　f) 子育てが楽になった
　　g) 特に自分の子育てには影響しなかった　h) 子育ての情報が得やすくなった　i) その他（　　）
(5) 他の人があなたの育児をほめたり批判したりするのは気になりますか …… ①はい ②どちらでもない ③いいえ
(6) あなたが育児について努力しているのをほめて欲しいと思うことがありますか … ①はい ②どちらでもない ③いいえ
(7) あなたは自分の子どもが生まれるまでに、他の小さい子どもさんを抱いたり、遊ばせたりした経験はありましたか
　…… ①よくあった ②ときどきあった ③なかった
(8) あなたは自分の子どもが生まれるまでに、他の小さい子どもさんに食べさせたり、おむつをかえたりした経験はありましたか
　…… ①よくあった ②ときどきあった ③なかった
(9) 育児をする上でモデルとなる人はいますか …… ①いる ②いない
　「いる」の方にお聞きします。それは誰ですか（当てはまる人に○、いくつでも可）…… ①両親 ②祖父母
　③兄弟姉妹 ④親戚 ⑤友人 ⑥タレント ⑦近所の人 ⑧その他（　　）
(10) 自分の子どもをもつ前にイメージしていた育児と実際の育児とでは違いがありましたか
　…… ①大いにあった ②少しあった ③なかった
(11) あなたは親（又は親に代わる人）にかわいがられましたか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(12) あなたは、自分の思い通りにものごとをすすめたい方ですか …… ①はい ②どちらともいえない ③いいえ
(13) お子さんと離れたい、と思うことはありますか …… ①よくある ②ときどきある ③ない
(14) あなたは自分の親（又は親に代わる人）から厳しい体罰を受けたことがありましたか … ①よくあった ②ときどきあった ③なかった
(15) あなたは自分の夫から暴力を受けていますか …… ①よくある ②ときどきある ③ない
(16) このお子さんを産んでよかったと思いますか …… ①よく思う ②思う ③あまり思わない
(17) お子さんの事に関しては、一方の親だけが責任をとり他方はまかせっきりですか …… ①いつも ②たいてい ③いいえ
(18) お子さんが同じことをしているのに、ある時はしかり、ある時はみのがしたりしますか …… ①いつも ②ときどき ③いいえ
(19) お子さんがおもしろそうにしていれば悪いことでもしかったり禁止したりできにくいですか … ①いつも ②ときどき ③いいえ
(20) 子どもだけが生きがいだと思っていますか …… ①いつも ②ときどき ③いいえ
(21) 育児で不安になることはありますか …… ①いつも ②ときどき ③いいえ
(22) お子さんがしていることを黙ってみていられなくて、口出ししますか … ①いつも ②ときどき ③いいえ
(23) お子さんをよそのお子さんと比較して見ることが多いですか …… ①いつも ②ときどき ③いいえ

(24) お子さんのしていることを「あれはいけない」「これはいけない」と禁止しますか … ①いつも ②ときどき ③いいえ
(25) お子さんを叱るとき、たたく、つねるとか、けるなどの体罰を用いますか …… ①いつも ②ときどき ③いいえ
(26) 叱る時頭や顔などをたたいてしまうことがありますか …… ①ない ②ときどきある ③よくある
(27) 叱る時物を使ってたたいてしまうことがありますか …… ①ない ②ときどきある ③よくある
(28) このお子さんとはなんとなく気があわないように思いますか …… ①いつも ②ときどき ③いいえ

**5. 姫路市で現在おこなわれている「子育て支援事業」についてお聞きします。**

(1) 子育てについて相談できるところをご存知ですか。知っている機関に○をつけてください。
①市役所児童福祉課(家庭児童相談室) ②保健所(保健センター・保健福祉サービスセンター)
③保育所(園) ④すこやかセンター ⑤その他( )

(2) 子育てについて以下の相談機関に相談したことがありますか。相談した機関に○をつけてください。
①市役所児童福祉課(家庭児童相談室) ②保健所(保健センター・保健福祉サービスセンター)
③保育所(園) ④すこやかセンター ⑤その他( )

(3) **「すこやかセンター」に「子育て支援施設」**があることをご存知ですか。
①利用したことがある ②知っているが利用したことはない ③知らない

(4) 会員間の育児援助組織である**「ファミリーサポートセンター」**をご存知ですか。
①会員になっている ②将来会員になろうと思っている ③知らない

(5) 子どもを一時的に預かってもらえる**「子育て支援短期利用事業」**をご存知ですか。
①利用したことがある ②知っているが利用したことはない ③知らない

(6) 保育所などへ通所している乳幼児が、病気の回復期に預かってもらえる**「乳幼児健康支援デイサービス事業」**をご存知ですか。
①利用したことがある ②知っているが利用したことはない ③知らない

(7) 今までに受診されたことのあるすべての乳幼児健診に○をつけてください。 ① 4か月 ②10か月

(8) 保健師が家庭訪問をしていることをご存知ですか。
①家庭訪問をしてもらったことがある(新生児 その他) ②知っているが訪問してもらったことがない ③知らない

**6. 子育てに最も必要と思われることに○をしてください。**（3項目まで）
①保育所、一時預かりなどの保育サービス ②遊び場 ③育児サークルなどのような親子で集まれる場
④育児サロンのように気軽に立ち寄って自由に話が出来る場 ⑤子育ての学習の場
⑥専門職等による相談 ⑦育児情報の提供 ⑧家事サービスや経済的支援などの生活支援

**7. ご家族について、お聞きします。**

(1) お子さんは、( )人中、( )番目
お子さんの年齢をすべて記入してください ( )歳 ( )歳 ( )歳 ( )歳 ( )歳 ( )歳 ( )歳

(2) お母さんの年代はどれですか …… ①20歳未満 ②20歳~24歳 ③25歳~29歳 ④30歳~34歳 ⑤35歳~39歳 ⑥40歳以上

(3) お父さんの年代はどれですか …… ①20歳未満 ②20歳~24歳 ③25歳~29歳 ④30歳~34歳 ⑤35歳~39歳 ⑥40歳以上

(4) お母さんは現在仕事をしていますか …… ①はい（ a）フルタイム、 b）パートタイム、 c）自営、 d）内職） ②いいえ

(5) 家族構成はどれですか …… ①夫婦と子どもだけの家庭 ②三世代家庭 ③その他( )

(6) 住居状況はどれですか …… ア）①一戸建て ②集合住宅 ③その他（ ）
イ）姫路市に住んで（ ）年目

(7) 経済状況についてお聞きします … ①安定している ②まあまあ暮らせる ③苦しい

(8) あなたが日常最も関心のあることに一つ○をつけてください。
①家族の健康 ②仕事のこと ③お金(家計)のこと ④家族関係 ⑤趣味 ⑥その他( )

**＊＊＊大変ありがとうございました。貴重なご意見として役立たせて頂きます。＊＊＊**

**※なおアンケート用紙は封筒に入れて無記名のまま1歳6か月児健診の際、回収箱にお入れください。**